学校での感染症対策について

葦原小学校

教室での対応

1. 教室準備

・換気
　⇒常時換気する。廊下、教室内2方向の窓を開ける。換気扇も常時使用する。
・手指用アルコール消毒液を各クラスに設置
　⇒まずは丁寧な手洗いをすすめる。
　　消毒用に使用してよいことを児童に伝える。

2. 手洗いと健康観察

・登校後、まず手を洗う。
　⇒1年生はランドセルを背負っているため、まず教室に荷物を置いてから手を洗う。
・「健康観察カード」提出
　⇒教室前廊下（文科省 HP に「登校時、教室に入る前に」と記載）
　　廊下の窓を開けておく。
　　廊下に間隔をあけて並ぶ（床に立ち位置を示すテープを貼る）。
　⇒忘れた場合、体温未記入の場合は、保健室で検温し記入。

・教室で体調不良を訴える児童がいた場合
　⇒保健室へ。症状を確認し対応します。

3. マスク

・児童、職員ともにマスクを着用する。
　⇒児童は、原則登校から下校まで。
　⇒体育時（屋内・屋外ともに）は、十分な距離があり、かつ適切な換気ができている場合は必ずしも着用する必要はない（文科省 HP より）。

・マスクを忘れた場合は
　⇒本人のハンカチとヒモゴムで代用
　⇒ハンカチも無い場合は、寄付された布マスクを貸し出す。
　　家庭で洗濯し、返却してもらう。
　　（新型コロナウイルスの場合、通常の洗濯を行う:厚生労働省 HP より）

4. 手洗い•咳エチケットの指導

•定期的な手洗い

⇒登校直後に行う。

※石けんを使い 10 秒もみ洗い＋流水で 15 秒すすぐ（厚生労働省 HP）

•随時の手洗い

⇒トイレのあと、給食前後、休み時間のあと等。

•パワーポイントを使って教室にて適宜指導

✔石けんを使い 10 秒もみ洗い＋流水で 15 秒すすぐ（厚生労働省 HP）

✔手洗いのタイミング

✔洗っていない手で目•鼻•口をさわらない。

✔咳やくしゃみはハンカチやティッシュ、あるいは内肘でうける。

保健室での対応

1. 来室時

•入り口と室内を2つに分ける。パーテーションで仕切る。

けがをした児童用　⇒　西門側（後ろ）

体調不良の児童用　⇒　職員トイレ側（前）

2. 体調不良の児童について

•体温測定等のバイタルサイン、咳などの風邪症状を確認する。

例）発熱、鼻づまり、咳、体のだるさ、下痢、寒気、筋肉痛、頭痛、のどの痛み、
味覚•嗅覚の異常、息がしづらい、胸の痛みが続く

•発熱がある、また上記の風邪症状が複数にわたり当てはまる場合は、
保護者に連絡し、お迎えをお願いする。

•発熱した児童は、別室で待機する。

⇒場所については検討中。

•布団の使用について

⇒シーツ交換•洗濯が頻回になるため、使用は最低限とする。
高熱の場合や、姿勢保持がつらい場合など、状況によって使用する。

消毒作業について

児童の下校後に行う。

・校内共用部　【担外】

複数の人が触れる可能性のある共用部を、次亜塩素酸ナトリウム消毒液で消毒する。

⇒　ドアノブ、階段の手すり、トイレの個室取手・レバー、水道の蛇口

・各教室　担任＋学年づきの先生1名

児童が使用したものを消毒

⇒　電気のスイッチ、扉の取手

⇒　机、いす、児童が物を出し入れした棚

※各学年に消毒セットを準備しますのでご使用ください。

※ハイターは職員室に保管します。作業の際に持っていってください。

見守り登校用に、あしっこ中にも2本保管していますので、適宜ご使用ください。

※作業手順は、消毒セットとともに入れておきます。

当面の保健行事について

・医師がかかわる検診については現在未確定。

⇒今年度のみ、6月30日までに健康診断が実施できない場合は、

今年度末までに実施することが可能となった。

・尿検査、心臓検診についても延期。

・校内で行う健康診断

2測定、聴力検査、視力検査も延期。

器具を使用するため、慎重に検討していきます。

施設の消毒方法　5.11改訂

準備物　バケツ　　雑巾（1回目の水拭き用、消毒用、2回目の水拭き用）　　ハイター

ゴム手袋（手が荒れますので、名前を記入し必ず着用してください）

消毒方法

1　水拭き①　：　各教室（机、いす、引き戸の取手、電気のスイッチ、使用した棚）

校内共用部（階段の手すり、トイレの扉・レバー、水道の蛇口）
ほこりや汚れを拭き取り、消毒効果を上げる。

2　消毒　　：　バケツの中に水を2リットル　＋　ハイター25ml（キャップ1杯）

その中に雑巾を浸し、絞って使用する。
水拭きした所を拭く。



3　10分間放置

4　水拭き②　：　消毒液で拭いたところを水拭きする。

※次亜塩素酸ナトリウムには金属腐食性があることや、
拭き残しは匂いや肌荒れにもつながることから、
水拭き②を丁寧に行う。